

令和4年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果について（概要）

萩市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施期日

令和4年4月19日（火）

(3) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	16校	263名
中学校第3学年	12校	277名

※ 弥富小、鈴野川小、相島小中は休校中。

※ 見島小中は該当学年に在籍児童生徒なし。

(4) 調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科） ※令和4年度は理科を実施
 - ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
 - イ 学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

- **【県平均に対して】** 小学校は、国語・算数ともに県平均と同等。理科は県平均を3ポイント上回った。中学校は、国語・数学は1ポイント、理科は2ポイント、県平均を下回った。
- 【全国平均に対して】** 小学校は、国語は全国平均を下回ったが、算数は全国平均と同程度、理科は全国平均を上回った。中学校は、国語・数学は概ね全国平均と同程度であったが、理科は全国平均を下回った。

(2) 教科ごとの結果

小学校				中学校			
区分	平均正答率 (%)			区分	平均正答率 (%)		
	萩市	山口県	全国		萩市	山口県	全国
国語	65	65	65.6	国語	69	70	69.0
算数	63	63	63.2	数学	51	52	51.4
理科	67	64	63.3	理科	47	49	49.3

(3) 各教科に見られる成果と課題

(○：相当数の児童生徒ができている点 △：課題がみられる点)
※ゴシックは特に課題が見られる点

【小学校国語】

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解すること
- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと

△文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること

(記述例：わたしの文章のよさは、今年ががんばりたいことを伝えるために、～～を書いたり、
～～～を最後の段落に具体的に書いたりしたところです。)

△互いの立場や意図を明確にしながらいっしょに話合い、自分の考えをまとめること

△学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

【小学校算数】

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること(例：1050×4)
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること
- 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解すること

△示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解すること

(果汁が含まれている飲み物の量を半分にした時の、果汁の割合について正しいものを選ぶ)

△示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察すること

(85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ)

△伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること

△正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述すること

【小学校理科】

- 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつこと
- メスシリンダーという機器を理解していること
- 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと

△日光は直進することを理解していること

△実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること

△自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること

【中学校国語】

- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること
- 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと

△行書の特徴を理解すること

△表現の技法について理解すること

△自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと

【中学校数学】

- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解すること
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること
- 簡単な連立二元一次方程式を解くこと

△筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること

△一次関数の変化の割合の意味を理解すること

△事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

【中学校理科】

- モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること
- 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること

△力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力について説明すること

△化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈すること

△飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善すること

△日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を選択し、静電気に関する知識及び技能を活用すること

3 児童生徒質問紙の結果

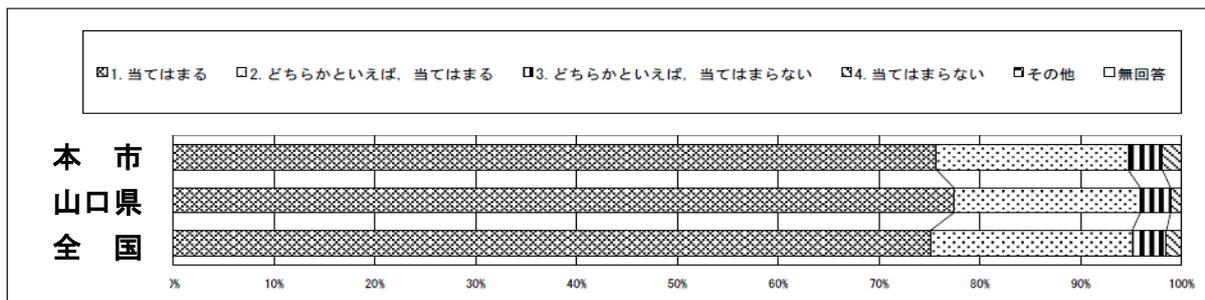
- ◎「萩市ひとづくり推進計画」における成果指標に関わる質問項目を抜粋
- 萩市として課題がある内容の質問項目を抜粋

◎子どもたちの意識について

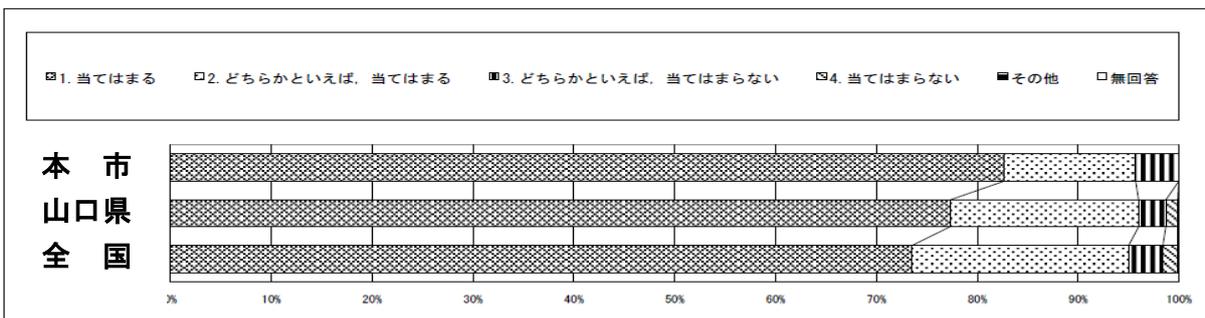
人の役に立つ人間になりたいと思っている小学生、将来の夢や目標を持っている小学生は全国と同程度であるが、県と比べると低い。
中学生については、どちらの質問項目も、県や全国と比べて高い。

質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【小学校】

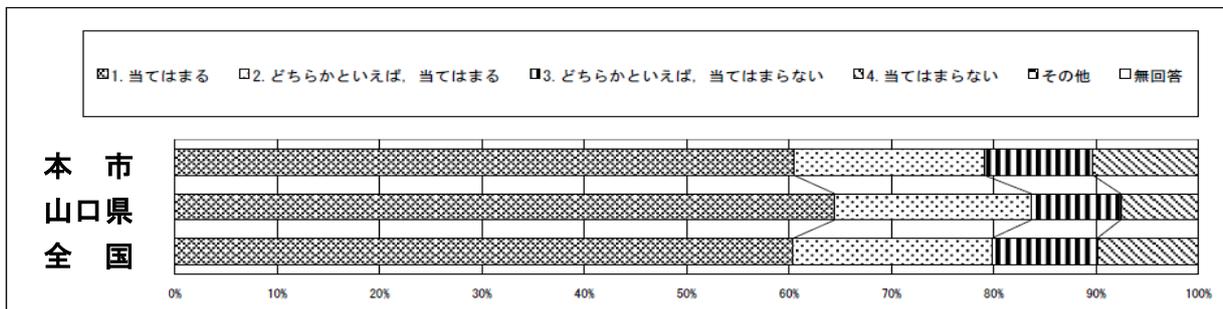


【中学校】

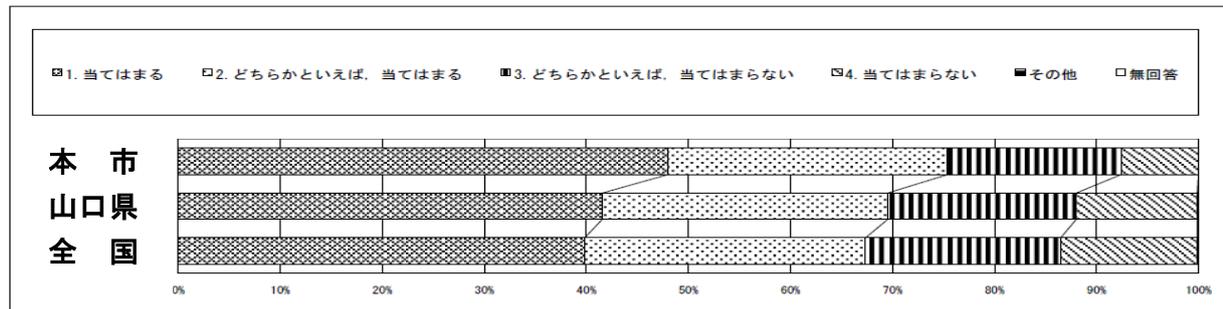


質問：将来の夢や目標を持っていますか。

【小学校】



【中学校】

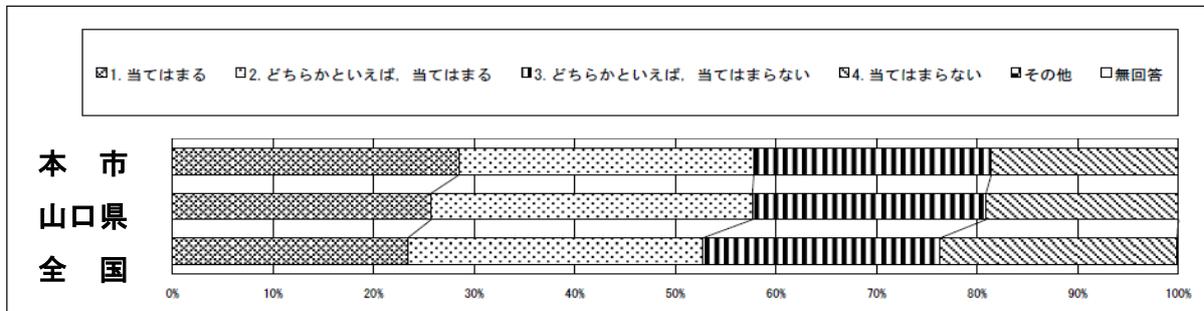


◎地域との関わりについて

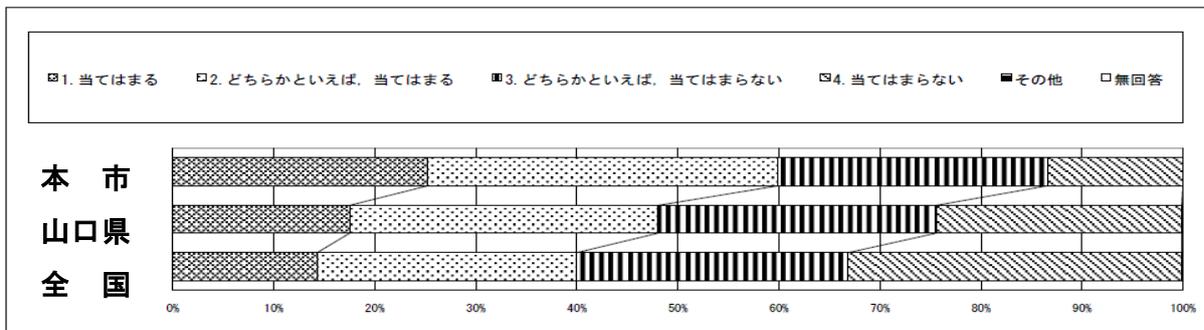
今住んでいる地域の行事に参加している子どもは、小・中学生ともに、全国や県と比べて高い。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている子どもの割合は、全国や県と比べて小学生は低い、中学生は高い。

質問：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

【小学校】

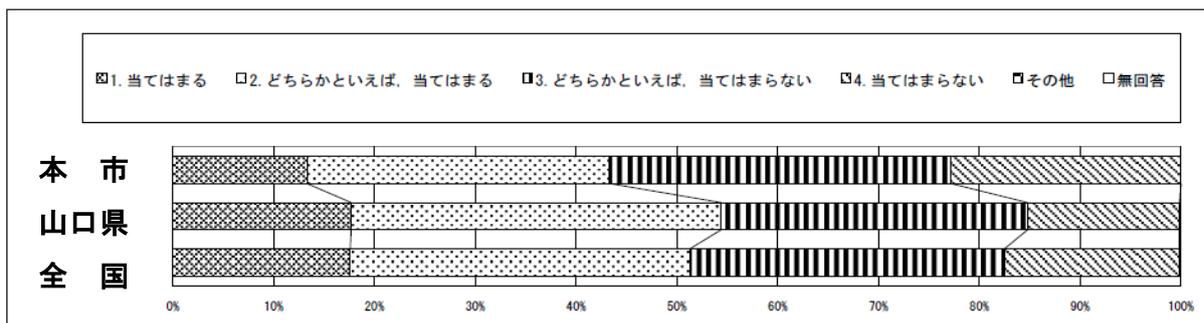


【中学校】

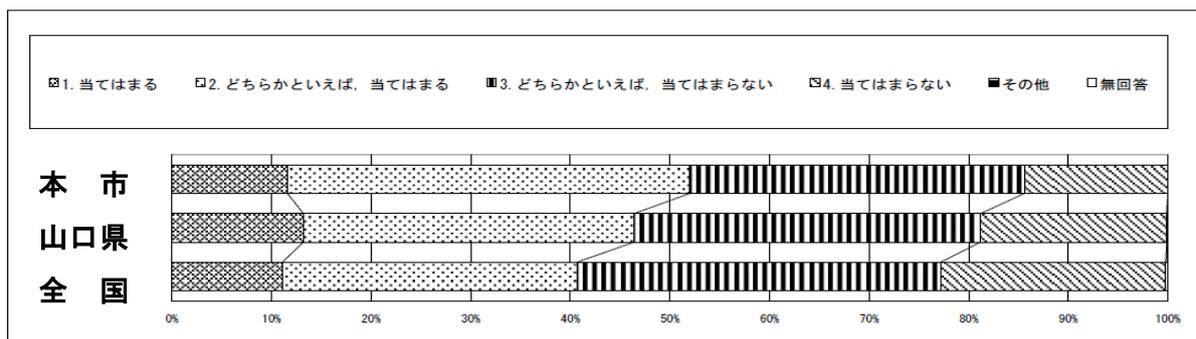


質問：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

【小学校】



【中学校】

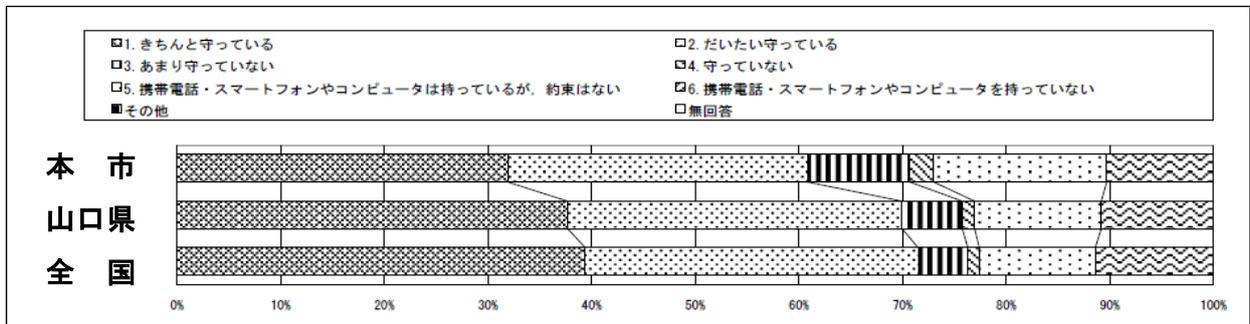


●生活習慣に関わること

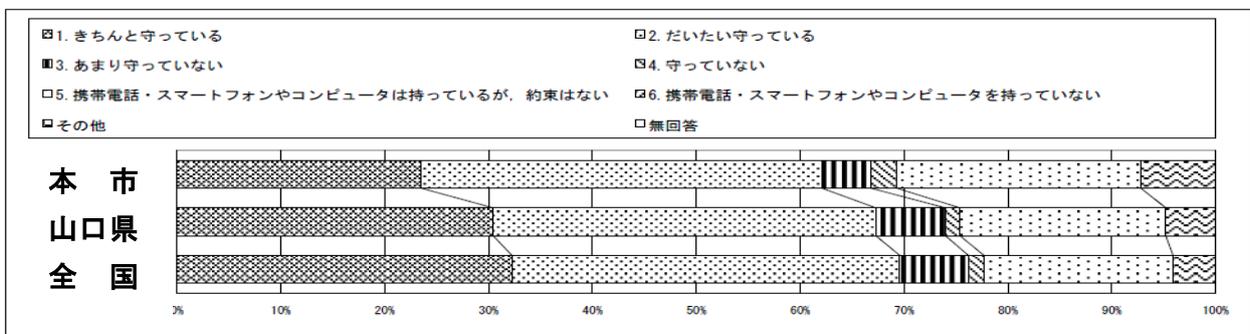
家庭での携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について課題がある。

質問：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

【小学校】



【中学校】

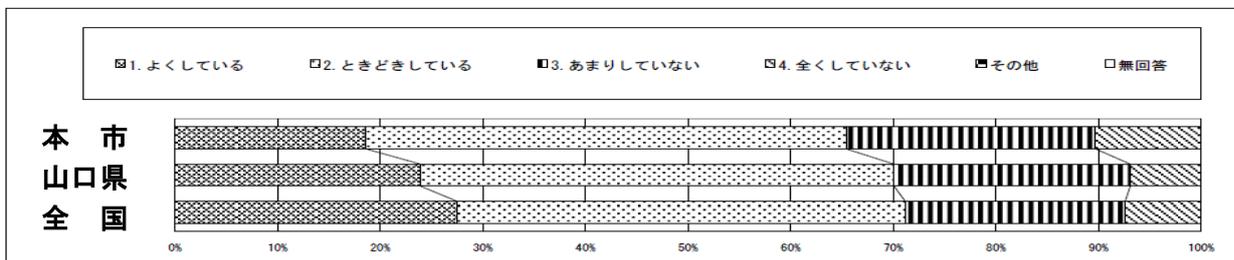


●学習習慣に関わること

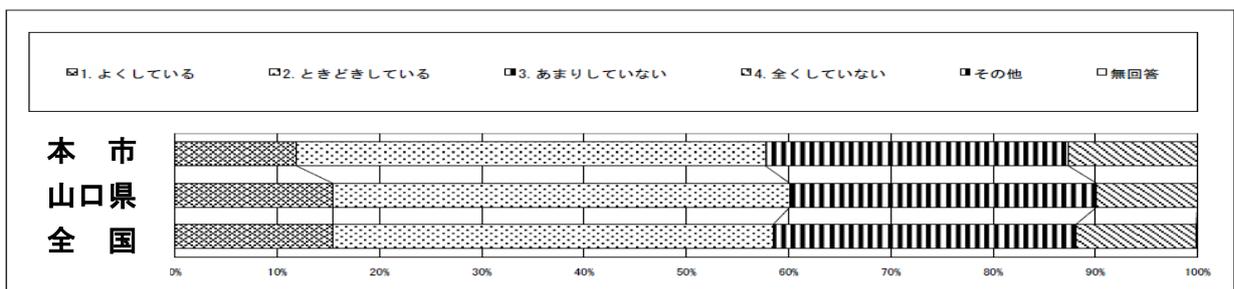
自ら計画的に学習を進めている小・中学生の割合は全国や県と比べて低い。

質問：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

【小学校】



【中学校】

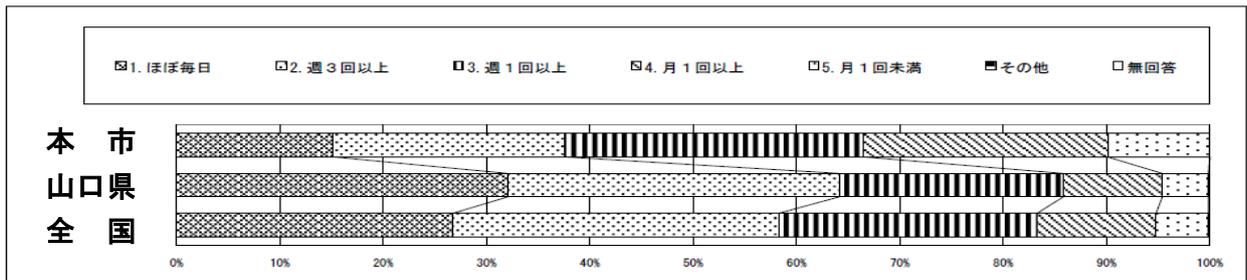


● ICTの活用及びICT機器に対する意識について

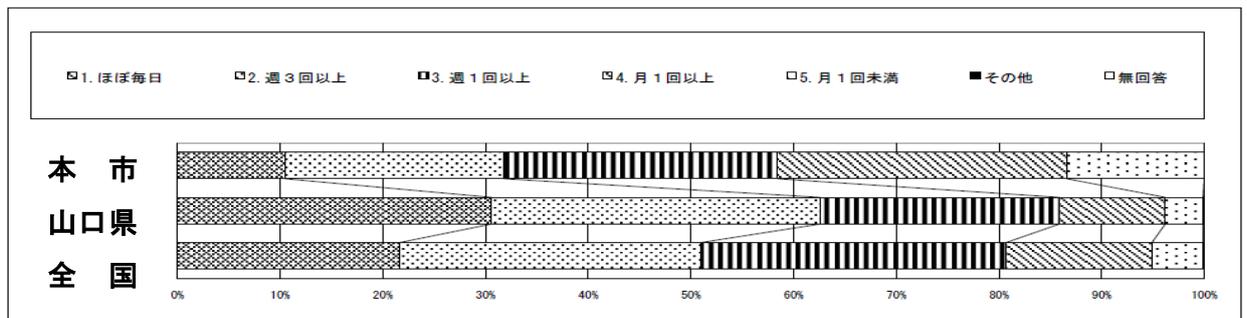
ICTを使用した授業の頻度、及び、学校で授業中に自分で調べる場面・学級の友達と意見を交流する場面で、PCやタブレットなどのICT機器を使っている頻度は、小・中学校いずれも全国や県と比べて下回っている。

質問：5年生（中：2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

【小学校】

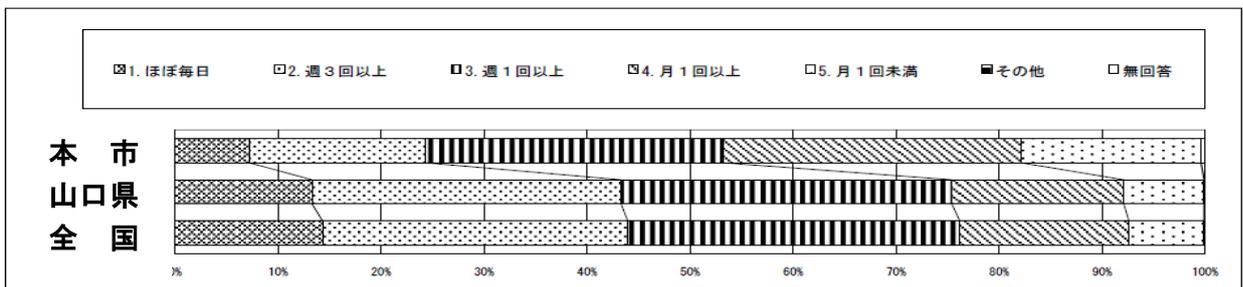


【中学校】

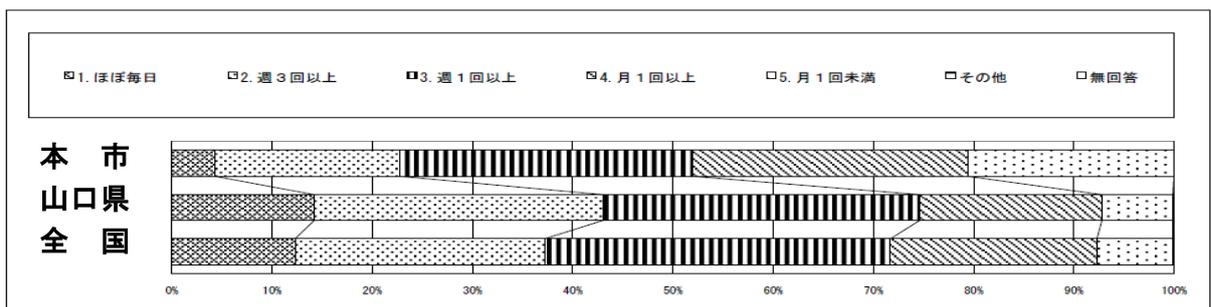


質問：学校で、授業中に自分で調べる場面で、PCやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など）

【小学校】

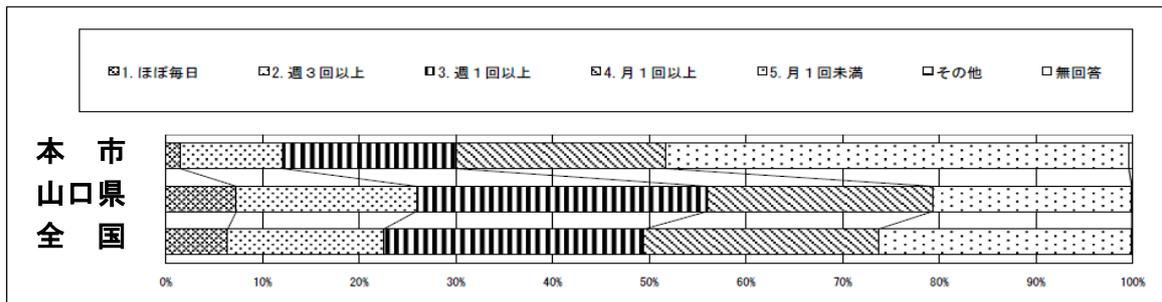


【中学校】

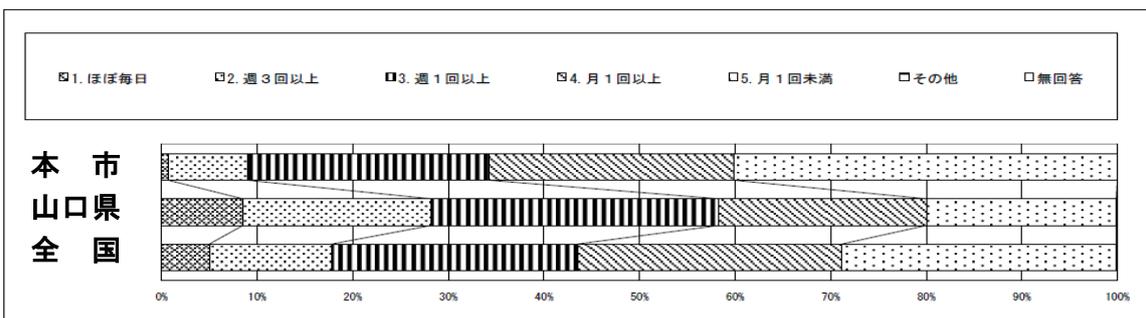


質問：学校で、学級の友達と意見を交流する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。

【小学校】



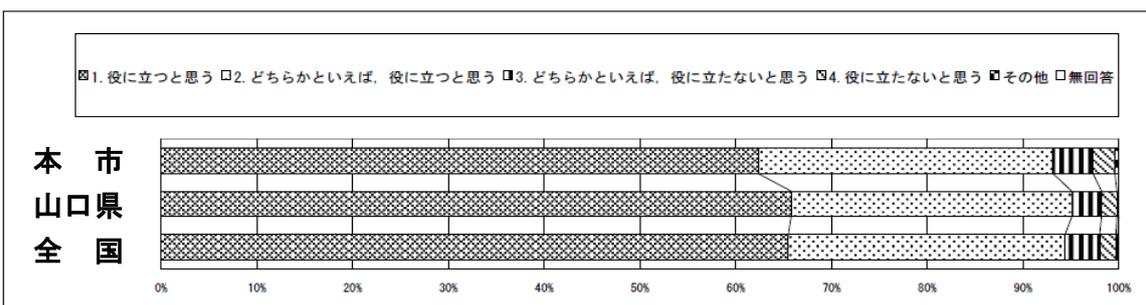
【中学校】



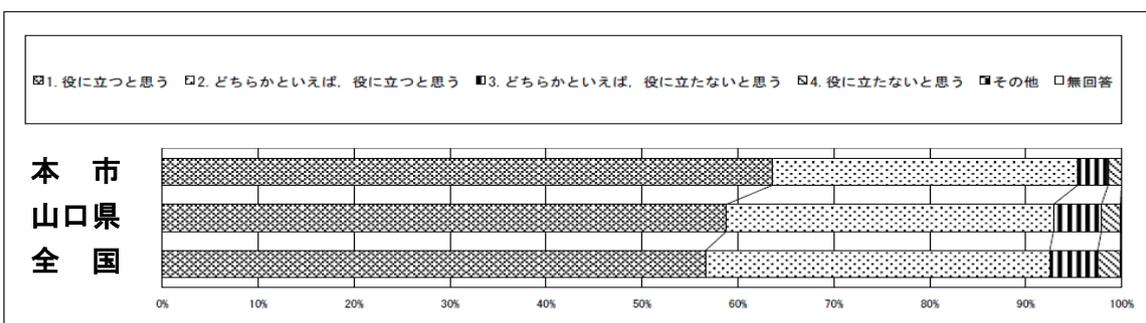
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立っている子どもの割合は、小学生は全国や県と比べて低いが、中学生は高い。

質問：学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つか。

【小学校】



【中学校】

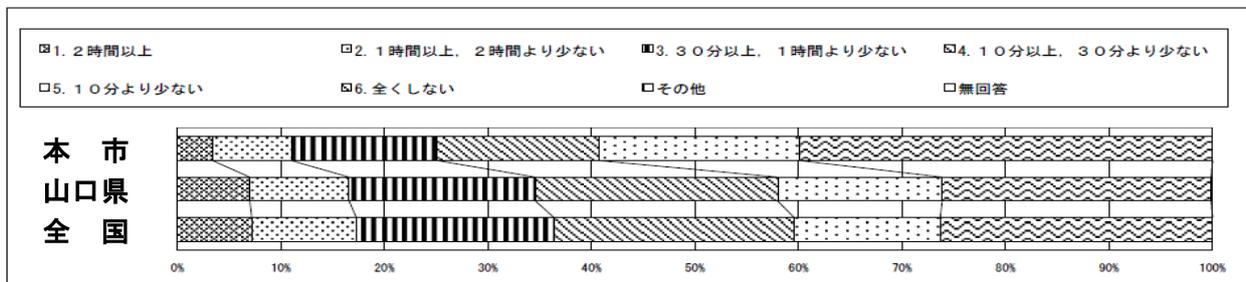


●読書習慣について

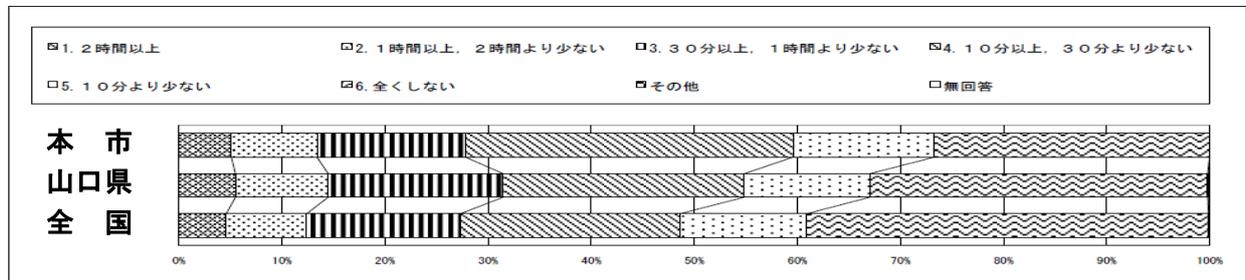
読書をする小学生の割合が、全国や県と比べて低い。

質問：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【小学校】



【中学校】



4 今後の重点取組事項

（1）学校全体での組織的な取組・体制の充実

① 調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けて

ア 児童生徒の課題に対して、即時的にすぐに手が打てる内容については、授業や家庭学習の中で早急に課題の克服を図り、中・長期的な指導が必要な内容については、校内研修に位置付けて、全教職員で継続的な取組を行い、改善を図る。

【即時対応・継続対応】

イ 正答だけでなく、誤答の記述や解答類型を分析することにより、児童・生徒が何に着眼して、どのように思考しているのかを把握し、授業等で具体的に指導する。

【誤答分析による授業改善】

ウ 日々の授業で次のことに留意する。

- 学習活動のねらい（目的、意図、効果、ゴール）を明確にし、児童・生徒自身がどのような力を身に付けたかを自覚できるよう指導する。〈学びの自覚化〉
- 児童生徒が、自分の考えを根拠を明確にして述べたり、既習事項や他教科での学びと関連づけて深めたりできるようにする。〈学び方の確立〉
- 複数の情報から必要な情報を選択する場や、目的に応じて判断したり推測したりする場を設定する。〈課題に応じた場の設定〉
- 目的に応じて、文章や図表から必要な情報を読み取り、いくつかの条件を満たしてまとめたり説明したりする場面を設定する。〈課題に応じた場の設定〉
- つまずきのある児童生徒への支援を徹底する。〈個に応じた支援の徹底〉

- 視点を与えて学習を振り返らせることで、児童生徒が、自己の学びを自覚したり、更なる課題意識を膨らませたりできるようにする。〈振り返りの充実〉
- 家庭学習の内容を授業内容と関連付け、児童生徒が家庭学習をすることの意義を実感できるよう工夫する。〈家庭との連携〉

エ ICT機器を効果的に活用した学習活動の展開により、児童生徒同士の学びあいを中心とした授業に変えることで、「主体的に考え行動する力」を育成する。【ICTの効果的活用】

※今後、授業で使用するアプリケーションの導入を検討していく。

【指標とする質問】

- ・小学5年生（中学2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか
（週3回以上使用 目標値：〈小〉37.6%⇒80.0% 〈中〉31.8%⇒70.0%）
- ・学校で、授業中に自分で調べる場面で、PCやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。（インターネット検索など）
- ・学校で、学級の友達と意見を交流する場面で、PCやタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。
- ・学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

（2）中学校区の小中学校間・家庭・地域との連携

【めざす青少年の姿】

- ふるさとに誇りと愛着をもつ青少年の育成
- 高い志と進取の気概をもつ青少年の育成
- 人や社会と積極的に関わる青少年の育成

① 地域の課題に向き合い、社会や地域の一員として何をなすべきかを考える学習活動を意図的・計画的に仕組み、学校・地域連携カリキュラムに位置付ける。

【指標とする質問】

- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
（目標値：〈小〉43.3%⇒70.0% 〈中〉52.0%⇒70.0%）
- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・将来の夢や目標を持っていますか。

② メディアとの接し方、望ましい学習習慣や読書習慣について、家庭・地域や関係機関と連携して、よりよい生活習慣の定着に向けた取組の改善を図る。

【指標とする質問】

- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
（目標値：〈小〉60.8%⇒70.0% 〈中〉62.1%⇒70.0%）
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- ・学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

（3）市教委としての取組

- 学力向上推進リーダーおよび学力向上担当教員との定期的な情報交換・課題共有の場を設け、担当指導主事による学校への指導・支援体制の充実を図る。